

サビエル生誕五百年



いのちは果敢ないものか
～毎日が巡礼～

巡礼の道

239

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

人は誰も老いる。そして死ぬ。古今東西どんな権力者も、どんな

いのかは果敢ないものか
～毎日が巡礼～

そして人は、死後どうなるのかと考える。人間の命は果敢ないものなのだろうか。そうではない。「人間は神によって神に似た者として造られ、神の救い

うなるのかと考える。人間の命は果敢ないものなのだろうか。そうではない。「人間は神によって神に似た者として造られ、神の救い

2011年3月9日 2月27日(日曜日)

NZ地震 安否不明の28人

【本紙特別】 本文2版1面

■ 茨城県立南高等学校の学生

作田日菜 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

新井美咲 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

藤田夢音 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

藤田のぞみ 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

内平美穂 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

石黒美穂 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

山崎美穂 19 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

森本美穂 22 茨城県立南高等学校 2年生。高校ではサッカー部。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

■ その他の留学生

藤井洋子 27 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

土橋あずさ 28 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

大塚詩子 41 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

早稲田結衣 37 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

中川大 39 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

中川大 39 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

中川大 39 前橋南高等学校 4年生。茨城県立南高等学校に留学中。NZ地震発生後、家族から連絡がつかなくなった。NZの友人から「NZ3の付近に」

安否不明や命を失った人たち―読売新聞から

遠のいのちの中に生きることができ「これがキリスト教の信仰である。江戸時代、キリスト教が禁止される中、神の救いを

鮮な気持ちで書き始めたいと先月、長崎市内を旅した。三日目の二月二十二日、ホテルのテレビでニュージールランドの地震を知った。今も行方不明者・死者の数は二百人を超え、日本人が

固く信じ、権力者によって殺された人たち。教会は彼らを殉教者と呼ぶ。日本で最も多くの殉教者が出たのが長崎である。また、一時教的とはいえ、キリスト教文化が最も栄えたのも長崎である。

語学研修にかけた若者、国際医療協力を目指した看護師、しっかりと生きた目的を持ちながら自然災害によって一瞬のうちに命を失った。人の命は何と果敢ないものだろうか。考えてみると、事故にも遭わず、病氣もしないでも、やがては老いて死を迎える、限りある命。自分自身も七十を過ぎ、病院に行くことが多くなった。待合室にはあふればかの高齢者。「老いること」「生きる目的は何



「神を愛し、仕える」と力説する百瀬神父

か」と考えさせられる。今回の長崎への旅は福岡、宗像の家のついでに足を伸ばしたものである。研修のテーマは「神の恵みと信仰生活」。最近考えさせられる「人間の生きる目的」などについての研修で、日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・サビエルと一緒にイェズスを創立したイグナチオ・ロヨラの名著「霊想」に基づいて進められた。指導は上智大学元神学部長で神学博士の百瀬文晃神父。ロヨラは霊想の中で「人間は、造り主である神を賛美し、敬い、仕え、それによって自分の救いをまっとうするために造られた」という一語を愛し、仕えることによってこそ人間の仕合せがあり、真実の生

の充実がある」と言う。しかし、事故に遭わずとも「老いる」「限りの命」「人間の生きる目的」といった壁が、今、自分の目の前に大きく立ちわだかまっているのは事実である。いのちは果敢ないだけのものだろうか。神の存在抜きに人間の生きる目的があるのだろうか。神に絶対の信頼をもって殉教した人たちの地、長崎を巡礼しながらゆつくりと生きる目的をも考えていきたい。(元山口放送取締役ラジオ局長)